

すいかずら

平成20年2月10日発行

編集 社寺建造物美術協議会

発行人 澤野道玄

〒604-8232 京都市中京区錦小路通
油小路東入る空也町491
(株)さわの道玄 内

TEL (075)254-3885 FAX (075)254-3886

選定保存技術保持団体としての 国の補助事業がスタート

昨年11月から国の補助事業がスタートしました。その第一弾として彩色の実技研修を実施しました。今回は彩色技術の初級者を対象に、彩色の基本的な技法である縹網彩色の実技研修を行いました。実物の斗椀を使い、6日間にわたって胡粉作りから上塗りまで通して実習しました。

◆日程	平成19年11月26日～12月1日
◆会場	長野県塩尻市木曾平沢 榎川公民館
◆講師	松村年恒先生 (南川面美術研究所)
◆研修生	石本 ゆう子 (財塩尻木曾地域地場産業センター) 石本 則男 (財塩尻木曾地域地場産業センター) 岩原 慎 (財塩尻木曾地域地場産業センター) 広田 純一 (財塩尻木曾地域地場産業センター) 深井 公 (財塩尻木曾地域地場産業センター) 宮原 善宗 (財塩尻木曾地域地場産業センター) 出口 晨太郎 (助川面美術研究所) 中澤 梢 (株)小西美術工芸社 山田 亜紀子 (株)さわの道玄



胡粉作り。先生の動きに真剣に見入る。

かす失敗
してしま
いました。
それでも
先生に丁
寧に教え
てもらい、
少しずつ
作業を進
めていき
ました。
何とか最
後までや
ることが
出来まし

たが、とても繊細な仕事だ
なあと感じました。

◆深井 公
練習用に貸していただ
いた材料は、実物と同じも
のなのでやりがいがあり
ました。何色が塗っていく
うちに寺社に塗ってある
ものを思い出し、張り合い
が出ました。彩色は漆と比
べて直ぐ色が出て、結果が
早くこれも楽しいことで
した。
失敗もありましたが、初
めてにしては手応えのあ
る研修になったと思いま
す。今後仕事を続けていく
中で、今回伝統的な仕事を
また一つ体験したことで、
また新たな気持ちで仕事
が出来そうな気がします。



胡粉塗り。

◆石本 ゆづ子

彩色の仕事では、今の世にあっても絵具を指で練り、指が最も重要な道具の一つだということに驚きました。昔ながらの方法が継承されているのは、それに勝るものがないからだと思えます。そのように人そのものを頼りにする仕事にとても温かみと魅力を感じました。



彩色。先生の手許を観察しては作業へ。

松村先生のご指導は素人にもわかりやすく、初歩的な質問にも丁寧にお答えいただき、今回の研修内容におさましては、自分の中で理解せずに終えたこ

とはないように思います。先生のお蔭をもちまして彩色への興味が大きくなりました。

◆宮原 善宗



型刷り。型にも工夫が凝らしてある。

漆とは異なる画材、技法を用いての研修は楽しみながら作業が出来ました。本業も未熟な中では彩色の知識は多少得られても、実際の作業はままならず。ただ先生をはじめ先輩方

の作業を見、幅広いお話を聞けたことは一番の収穫になったと思います。この機に他の職人さんの工房を拝見できたことも刺激になりました。今回参加させていただいた彩色に限らず、広い視野をもって他の世界にも積極的に触れる機会を作っていきたいと思います。

◆広田 純一

今回の縹網彩色技術研修会では、一週間にわたり下地から仕上げまで通して勉強することができた。一昨年の剥落止補彩とクリーニングに続き、経験の浅い自



作業も終盤に差し掛かり、さらに集中。

◆石本 則男
一番苦労したのは絵具の調合と使用中の調整でした。うまくぬれたかと思うと薄くなり、夢中になって塗っていると濃くなりすぎてブツブツが出来たりと、

塗り肌に納得できるものはありませんでした。伝統の中で培われてきた技法を一つマスターするのは大変だと思

ますが、これを機に産地の文化財修復の仕事に何とか役立てていければと思います。木曾漆器組合の文化財修復事業の責任者の立場として、この講習会に地元20代の青年



完成した斗拱を囲んで。

2名が参加してくれたことが非常に嬉しく、心強いものを感じました。

◆出口 農太郎

温度、湿度、光量の安定した室内の環境で、膠や水の加減、絵具の理想的なコンディションの作り方等、日常の仕事の中でおろそかになっていた作業ムラを根本から見直すことが出来たと思えます。天候に影響されがちな現場での普段の仕事に対し、室内でゆつくりと基礎を確認しながら作業

できたことは、今後に活きる有意義な経験になったと思えます。

◆中澤 梢

普段の作業現場ではなかなか詳しく聞く機会を得なかつたので、今回非常に良い機会となりました。先生の手を見ながら学べたのが、ほとんど初めてのことが多かった私にとっては、とてもありがたかったです。



完成。

◆山田 亜紀子
研修の後になるにつれ型紙の切り方、金泥の溶き方など細部のことで全く違う合理的な方法を教え

ていただき、大変勉強になりました。また職人の方々から、違う立場、視点から見た質問が出て、そのことよって理解が深まったように感じます。今まで材料の特性や値段などに無関心だった事を恥ずかし



金工技術研修会



春日神社青銅製の鳥居の前にて。

- 日時 平成20年1月11日～12日
- 参加者 森本 大隆 (株)森本鋳金具製作所
横山 智明 (有)横山金具工房
山本 睦 (株)小西美術工藝社
松井 紀明 (株)小西美術工藝社
大谷 英一郎 (株)大谷相模掾鋳造所
大谷 雄二郎 (株)大谷相模掾鋳造所
石黒 文香 (株)さわの道玄
- 研修場所 三重県桑名市・鈴鹿市



鳥居は経年変化で鈍い黒色に変わっている。

◆春日神社(桑名市)の青銅製の鳥居を見学。

桑名は古くから鋳物の町として知られています。旧東海道桑名宿の春日神社には寛文7年(1667)7代藩主の松平定重が建立させた青銅製の鳥居が今も残っています。鳥居は幾度か戦災や天災に遭っても、その都度修復がなされて今に至っており、伊勢湾台風の際に堀から流されてきた船が衝突し倒壊した際の傷跡が今も残っています。

◆本田技研工業(株)鈴鹿工場見学

続いて訪れた本田技研工業鈴鹿工場では、コンピュータ制御による最先端の機械設備を駆使した組み立てラインを見学しました。私たちの業界の伝統的な手仕事とは対照的な物づくりの現場ではありませんが、意外にも機械のみに頼る作業は少なく、人が機械の助けを借りて次々とパーツを組みつけて行く様子が印象的でした。



組立工場ラインを見学